

令和5年度

秋田県学習状況調査

能代市分析結果

- I 実施の状況
- II 教科に関する調査結果
 - 1 概要について
 - 2 各学年の結果について
 - (1) 小学校4年生平均通過率
 - (2) 小学校5年生平均通過率
 - (3) 小学校6年生平均通過率
 - (4) 中学校1年生平均通過率
 - (5) 中学校2年生平均通過率
 - (6) まとめ
- III 質問紙調査結果



能代市教育委員会

I 実施の状況

1 実施趣旨

○学習指導要領の内容の定着度等を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題を捉え、学習指導の工夫改善を図るとともに、全国学力・学習状況調査、本調査及び高校入試を活用して、学習指導における検証改善サイクルを確立し、児童生徒の学力向上に資する。

2 実施学年

小学校4年生～中学校2年生

3 調査内容

- ①教科に関する調査
- ②質問紙調査



4 実施教科

小学校4年生 : 国語、算数、理科
小学校5、6年生 : 国語、社会、算数、理科
中学校1、2年生 : 国語、社会、数学、理科、英語

5 実施期日

小学校 : 令和5年12月6日(水)
中学校 : 令和5年12月7日(木)

6 調査を実施した学校・児童生徒数

対象学年	学校数(実施率)	実施児童生徒数
小学校4年生	7校(100%)	262人
小学校5年生	7校(100%)	293人
小学校6年生	7校(100%)	287人
中学校1年生	6校(100%)	324人
中学校2年生	6校(100%)	327人

Ⅱ 教科に関する調査結果

Ⅰ 概要について

<小学校> たいへん良好な状況です

(1) 県平均を上回った教科

4年生 国語、算数、理科

5年生 国語、社会、算数、理科

6年生 国語、社会、算数、理科

※各学年で実施した全ての教科において、県平均を上回っています。

☆県平均を5ポイント以上、上回った教科

5年生 社会

6年生 国語、社会、算数

(2) 昨年度との比較から

5ポイント以上県平均を上回る教科が昨年より増え、全ての教科で県平均を上回っていることから、たいへん良好な状況と言えます。

<中学校> たいへん良好な状況です

(1) 県平均を上回った教科

1年生 国語、社会、数学、理科、英語

2年生 国語、社会、数学、理科、英語

※各学年で実施した全ての教科において、県平均を上回っています。

☆県平均を5ポイント以上、上回った教科

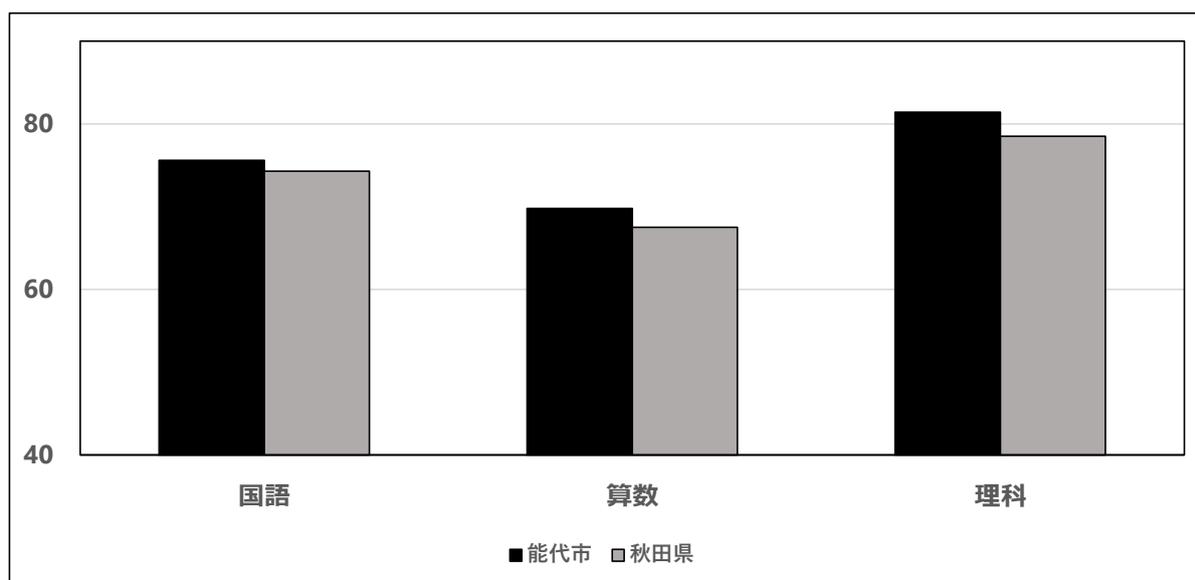
2年生 理科

(2) 昨年度との比較から

5ポイント以上県平均を上回る教科は昨年より減ったものの、全ての教科で県平均を上回っており、たいへん良好な状況と言えます。

2 各学年の結果について

(1) 小学校4年生平均通過率



各教科ともたいへん良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回っています。

<国語> 12問中、9問で上回っています。

<算数> 18問中、13問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(2) 1 - (分数) の計算

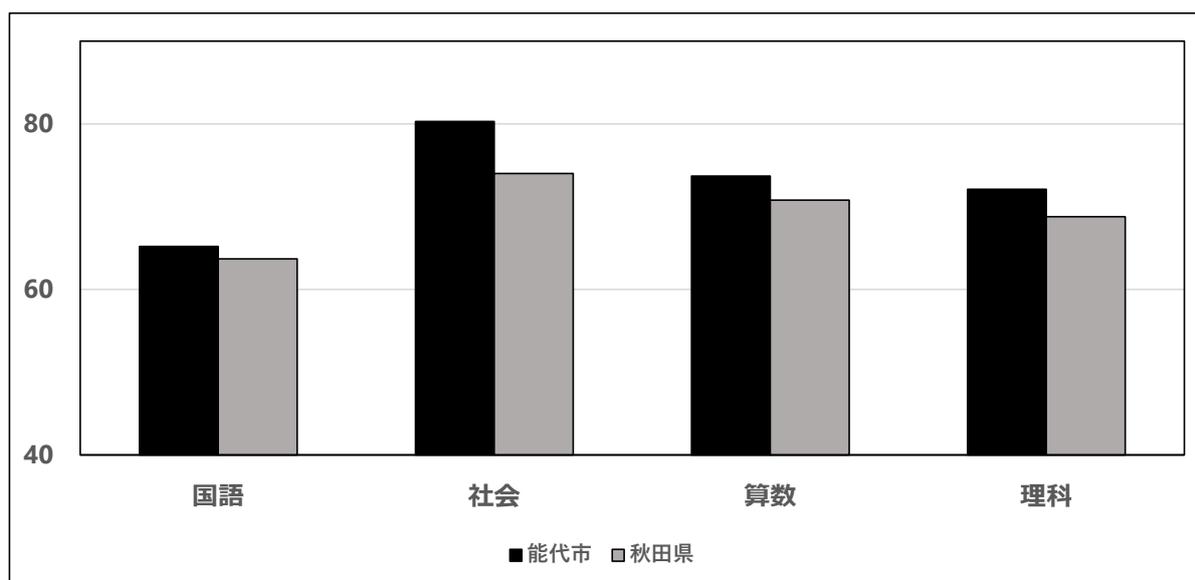
(16) 180° より大きい角度の測定

<理科> 12問中、7問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(7) 乾電池のつなぎ方と電流の向き

(2) 小学校5年生平均通過率



各教科ともたいへん良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回っています。社会は5ポイント以上、上回っています。

<国語> 16問中、11問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(10) 話し手と自分の考えの共通点を捉える

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

(15) 文章の要旨を捉える

<社会> 18問全ての問題で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(4) 地図記号と方位

(16) 我が国の農業の特色

<算数> 18問中、15問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(2) (整数) - (帯分数) の計算

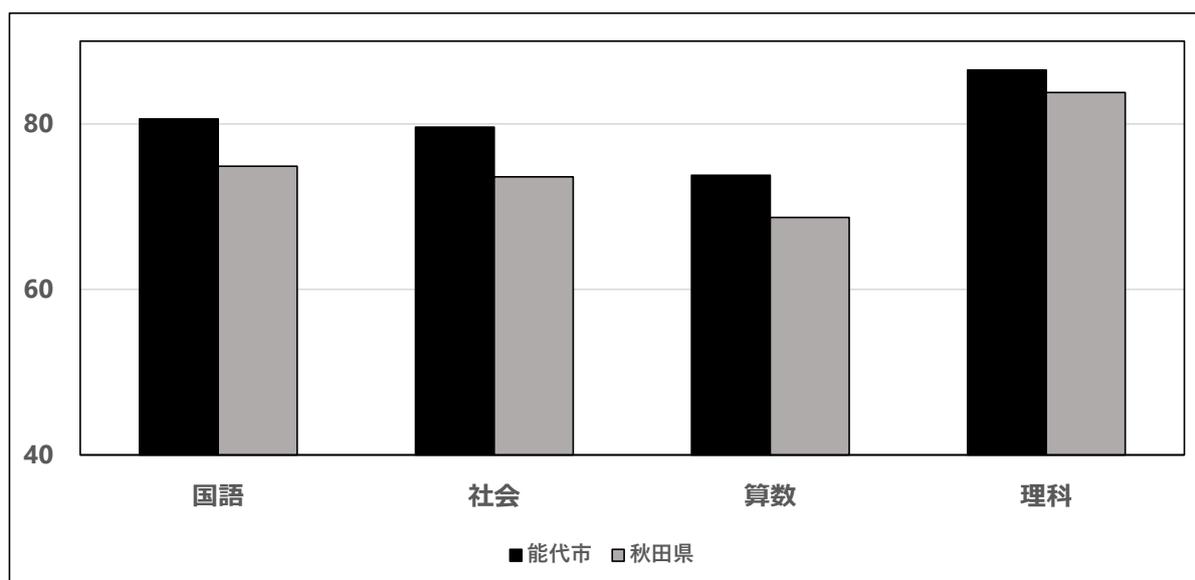
<理科> 18問中、14問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(8) 閉じ込めた空気と水の体積変化

(10) 発芽するときの子葉の役割

(3) 小学校6年生平均通過率



各教科ともたいへん良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回っています。国語、社会、算数は5ポイント以上、上回っています。

<国語> 18問全ての問題で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

- (5) 送り仮名に気を付けて漢字を書く(快い)
- (9) 敬語
- (17) 文章を読んで自分の考えをまとめる

<社会> 18問中、16問で上回っています。

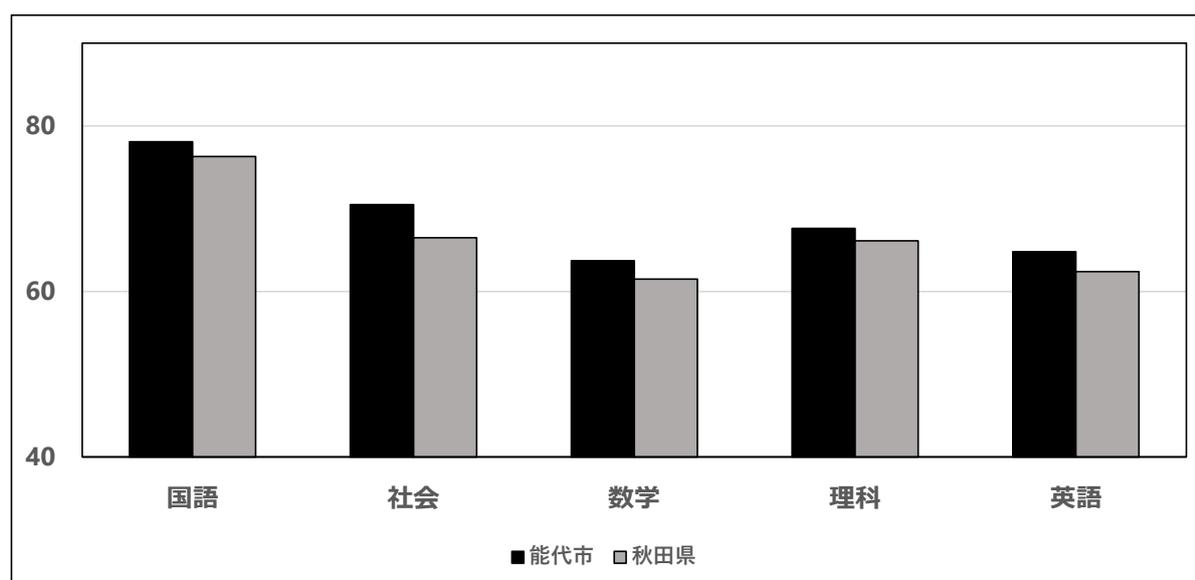
☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

- (11) 国民生活における政治の働き
- (13) 国や地方公共団体の政治の働き
- (16) 大和政権の広がり
- (18) 日本風文化の特色

<算数> 18問中、17問で上回っています。

<理科> 18問中、16問で上回っています。

(4) 中学校1年生平均通過率



各教科ともたいへん良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回っています。

<国語> 18問中、11問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(8) 文節

<社会> 18問中、13問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(18) 古代における政治や社会の変化

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

(3) 日米修好通商条約が締結された当時の社会の様子

<数学> 18問中、13問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(4) 素数

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

(1) 正負の数の四則の混じった式の計算

(3) 速さ、時間、距離の関係

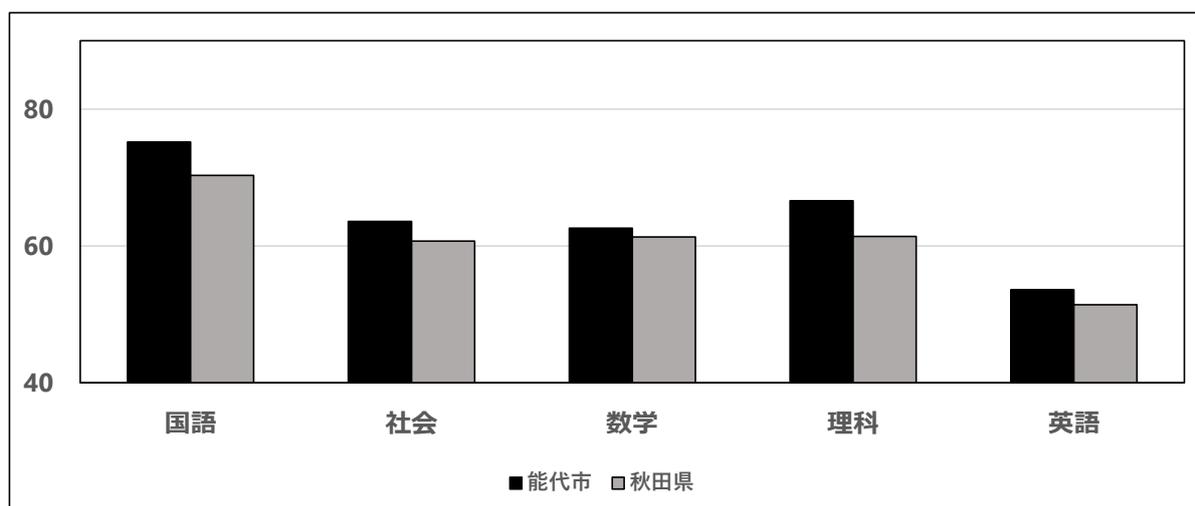
<理科> 18問中、10問で上回っています。

<英語> 18問中、13問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(14) 日曜日することについての英文の作成

(5) 中学校2年生平均通過率



各教科ともたいへん良好な状況です

○全ての教科が県平均を上回っています。

<国語> 18問中、12問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(2) 話の内容を捉える (10) 品詞

(17) 登場人物の心情を捉える

(18) グラフや表から考えたことを、体験と関連付けて書く

<社会> 18問中、13問で上回っています。

<数学> 18問中、10問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(10) 累積度数

★県平均を5ポイント以上、下回った問題

(5) 等式の変形 (6) 縮図の利用

(17) データを根拠にした説明

<理科> 18問中、8問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(7) 活断層

(11) 化学変化のモデルを用いた表し方

<英語> 18問中、11問で上回っています。

☆県平均を10ポイント以上、上回った問題

(6) 内容に応じた質問を書く

(6) まとめ

★県平均を5ポイント以上下回った問題

国語

小5年 (15) 文章の要旨を捉える

社会

中1年 (3) 日米修好通商条約が締結された当時の社会の様子

数学

中1年 (1) 正負の数の四則の混じった式の計算

(3) 速さ、時間、距離の関係

中2年 (5) 等式の変形

(6) 縮図の利用

(17) データを根拠にした説明

対策

令和5年度の問題で、県平均を5ポイント以上下回った問題は、7問で、昨年度より6問減少しました。ただし、小学校5年生の国語(15)、中学校1年生の社会(3)の問題は10ポイント以上下回っています。中学校1年生の数学の「速さ、時間、距離の関係」に関する問題については、昨年度の小学校6年生の「速さ、時間、道のりの関係」でも同様の課題が見られました。

小学校5年生の国語(15)、中学校1年生の数学(3)、中学校2年生の数学(6)の問題は、県教委の示す「学習状況における課題等の改善に資する問題」、小学校5年生の国語(15)の問題は、「問いを発する子どもの基盤づくりに資する問題」に分類されています。

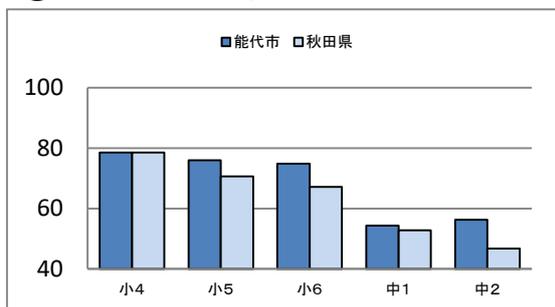
課題となっている問題については授業改善へのメッセージと捉え、今年度のうちに回復を行いながら、よりよい授業づくりに努めます。



Ⅲ－Ⅰ 質問紙調査結果（学習全般について）

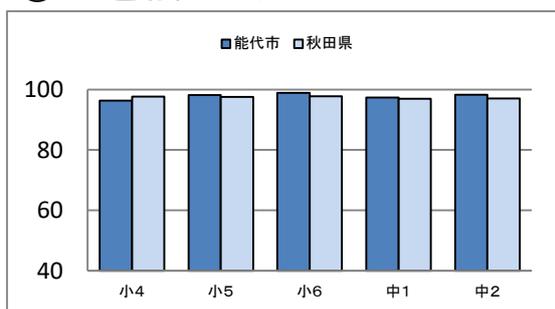
※グラフは、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合を示しています。

① 勉強が好きだ



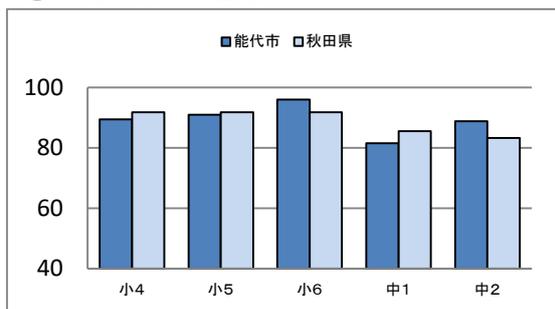
昨年度に比べると各学年とも割合は減少しているものの、小5、小6、中2の学年で県平均を5ポイント以上、上回っています。各学校では「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを進めています。今後も児童生徒の興味・関心を高める取組をしながら、勉強好きの児童生徒が増えるよう努めていきます。

② 勉強は大切だ



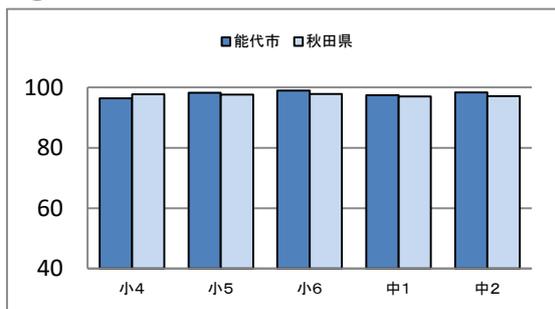
全ての学年で95%以上となっており、昨年度とほぼ同等の割合となっています。どの学年も100%に近い数値です。各学校で学習が日常生活につながっていることや、生活に役立っていること等を児童生徒に気付かせ、勉強の大切さを実感させる取組をしていることがうかがえます。

③ 学校の勉強がよくわかる



県平均を下回る学年はあるものの、ほとんどの学年で平均が90%に近い数値となっており、おおむね良好です。各学校では、児童生徒一人一人の学習状況を見取りながら、基本的な学力の定着を図っています。個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けての授業改善に取り組んでいることもうかがえます。

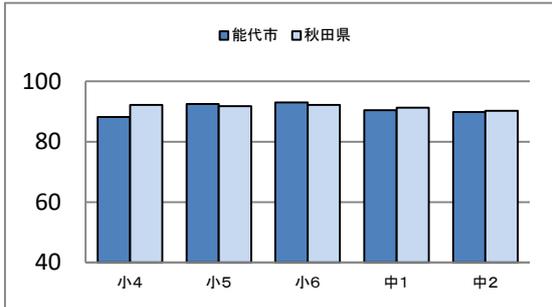
④ ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい



全ての学年で90%以上となっています。小6、中1、中2は100%に近い数値です。各学校では、日常生活や社会の事象と関連させながら学習活動を展開するよう心がけています。児童生徒は、目的をもちながら学習をしているため、基本的な学力の確実な定着につながっていることがうかがえます。

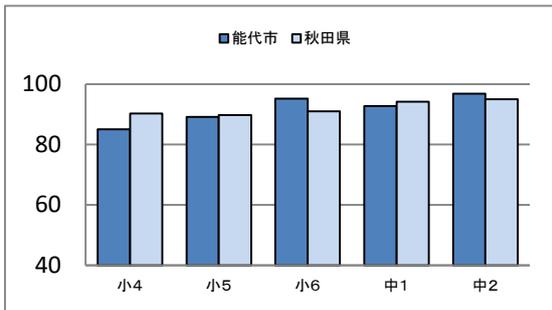
Ⅲ－２ 質問紙調査結果（学校生活について）

① 学校が楽しい



県平均を下回る学年はあるものの、ほとんどの学年で平均が90%に近い数値であり、昨年度と同等の割合となっています。各学校では、児童生徒に必要な教育活動の見直しを図りながら、学ぶことの楽しさや友達との関わりの大切さを味わわせ、日々の教育活動の充実に努めていることがうかがえます。

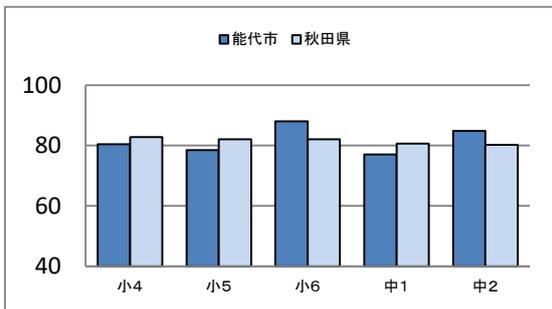
② 学校のきまりを守っている



小6～中2で90%を上回っています。中学校は昨年同様高い数値になっており、きまりを守ることの意義を理解しながら中学校生活を送っていることがうかがえます。各学校では、学級や児童会・生徒会を中心に、自分たちで主体的にきまりを考える機会が多くなり、規範意識の高まりにつながっています。

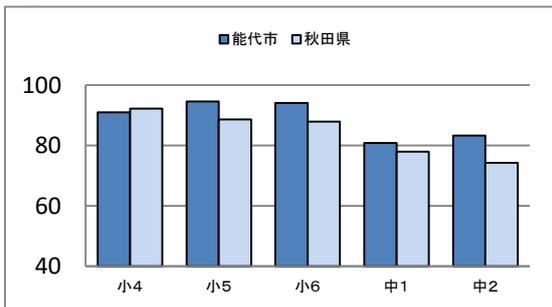
Ⅲ－３ 質問紙調査結果(ふるさと・キャリア教育について)

① 自分にはよいところがあると思う



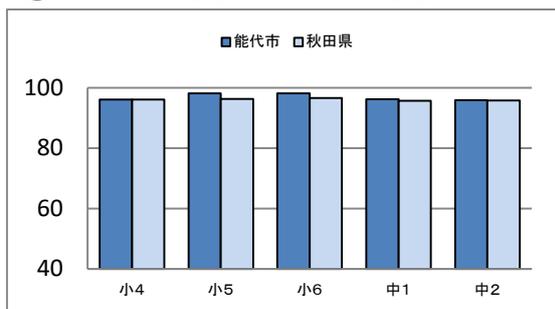
小6、中2の数値が高くなっています。どちらの学年も、学校のリーダーとしての活躍の場面が多くなっていることが自己有用感の高まりにつながっています。各学校では、自己肯定感・有用感を高めるために、周囲に認められる場を設定するなど、児童生徒一人一人のよさを伸ばそうとする取組をしており、成果が表れています。

② 将来の夢や目標をもっている



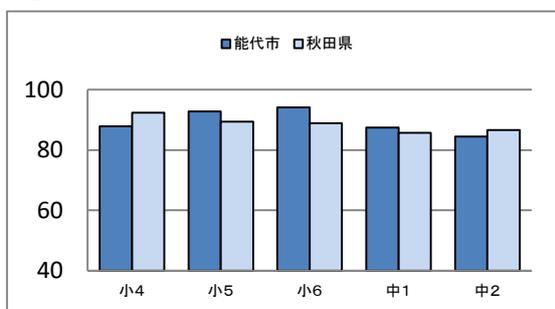
小5～中2までの学年で県平均以上となっています。特に、小学校では90%以上となっています。各学校では、年齢や発達の段階を踏まえ、働くことの意義や職業観の醸成、児童生徒一人一人のキャリア発達を適切に支援するために、職場見学や職場体験、ガイダンス等の進路指導を丁寧に行っていることがうかがえます。

③ 人の役に立つ人間になりたいと思う



全ての学年が95%以上となっています。各学校では、人と関わる活動を重視し、他者と協働しながら社会に役立つ行動をしていこうとする児童生徒の育成を目指しています。自分たちの活動が、誰かのためになり、社会貢献につながっているという実感につながっていることがうかがえます。

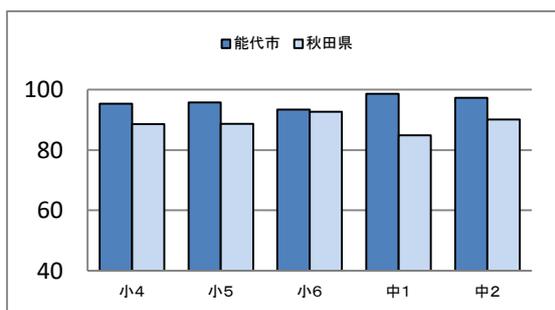
④ 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う



全ての学年で90%に近い数値となっています。各学校では、ふるさと・キャリア教育において、地域を支え、創出していこうとする気概、郷土愛や地域社会の発展に貢献していこうとする児童生徒の育成を目指しています。継続的で特色ある取組が、児童生徒の意欲を高めていることがうかがえます。

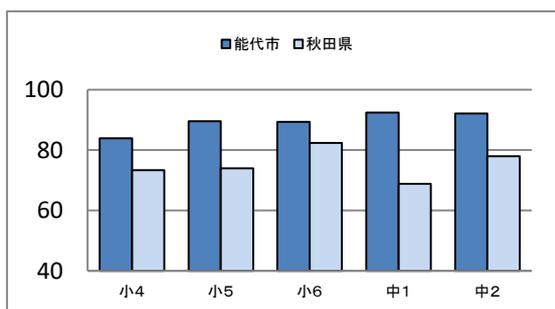
Ⅲ-4 質問紙調査結果（授業について）

① ふだんの授業では、週に1回以上ICT機器を使用している



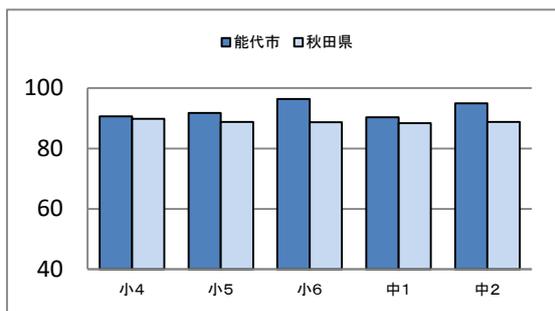
全ての学年で県平均を上回っています。また、「ほぼ毎日使用している」が小6～中2までは70%以上となっています。タブレット端末導入3年目に入り、各学校では「よく使う」段階から「よりよく使う」段階へと移行してきています。秋田の探究型授業のプロセスをより機能させるための学習ツールとしてICT機器を効果的に使用していることがうかがえます。

② 学校で、週に1回以上ICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している



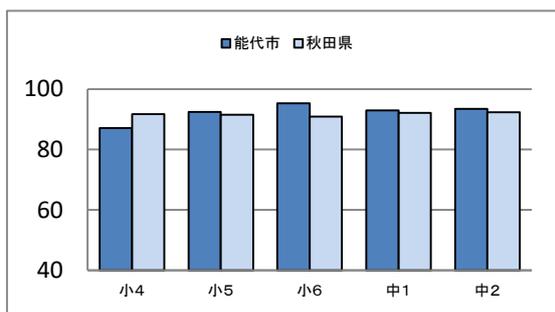
全ての学年で県平均を大きく上回っています。また、「ほぼ毎日使用している」の割合が中1、中2では50%以上となっています。各学校で、探究型の授業においてICT機器を活用していることがうかがえます。ICT機器の使用により、多様な意見や考えにふれることができ、考えを深めたり広げたりすることにつながっています。

③ ふだんの授業では、授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う



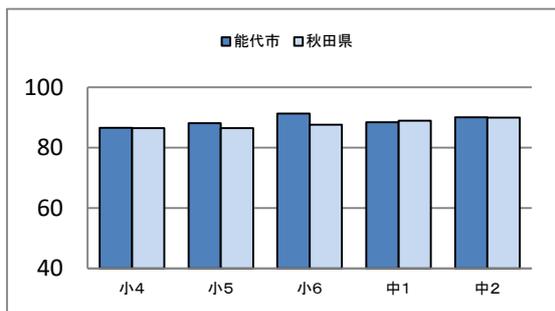
全ての学年が90%以上で、県平均を上回っています。各学校では、授業の導入部分で児童生徒と対話しながら学習課題を設定するなど、児童生徒が目的をもって主体的に学習に取り組むことができるようにしています。授業のゴールの姿も明確になり、意欲的な学びにつながっています。

④ ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動に進んで取り組んでいると思う



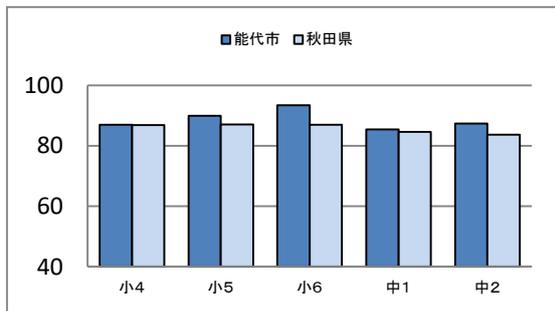
小5以上の学年全てが92%以上で、県平均を上回っています。各学校では、話し合いの目的に応じて、ペアやグループ、学級全体と学習形態を工夫しながら話し合いを行っています。また、各学校では話し合う場を意図的に設定し、友達と関わりながら学習活動を進めていることがうかがえます。

⑤ ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う



県平均を上回っている学年もありますが、ほとんどの学年で昨年度より数値が下がっています。授業中の話し合いが形式的になり、考えの深まりや広がりにつながらない活動になっていることも考えられます。明確な目的をもった机間指導や深い学びにつながる意図的氏名等、児童生徒主体の学び合いになるよう教師がコーディネートしながら授業改善に努めていきます。

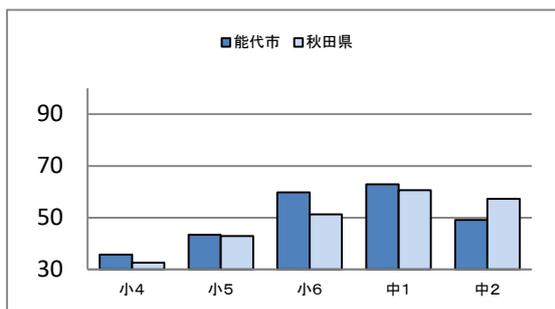
⑥ 授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う



全ての学年で県平均を上回っています。各学校では、児童生徒一人一人の学習状況を見取り、振り返りの時間を大切にしながら指導と評価につなげています。教師は、その結果を次の授業づくりに生かしながら、つながりや系統性を意識して、児童生徒主体の授業を展開していることがうかがえます。

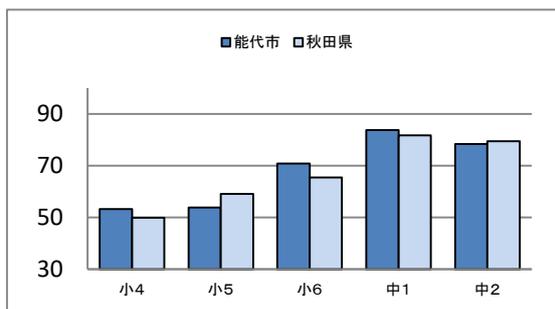
Ⅲ－５ 質問紙調査結果（家庭学習について）

① 学校がある日（平日）、授業以外で1時間以上勉強する



小学校は昨年度、県平均を下回る学年がりましたが、今年度は、全ての学年で上回りました。中学校は中1が県平均を上回りましたが、中2が県平均を下回っています。各校で作成している家庭学習の手引きを活用したり、AIドリルを家庭学習の中に位置付けたりしながら学習の習慣化を図っていきます。

② 学校がない日（休日）、1時間以上勉強する



昨年度は全ての学年で県平均を上回りましたが、今年度は小5、中2で県平均を下回っています。全学年で昨年度より数値が下がっています。学年の発達段階や個々の特性を見極めながら、家庭学習の進め方を指導することで「自ら学ぶ力」を育み、「やらされる」学習から「やりたい」と思える学習へ変えていきます。